

⑤小・中学校の学校図書館

学校における子ども読書活動の推進を図るため、授業をはじめとした学校教育活動の中に読書を位置づけて、読書教育の取り組みを進めている。また、読書や本への興味が持てるようなさまざまな機会をつくっている。

小学校図書館

学校図書館では、夏休みの開館日には児童・生徒の調べ物や読書を支援するだけでなく、行事も行っている。学年を超えた交流や、ゆったりと図書館で過ごす様子が見られる。

島田小学校では、毎年夏休みが始まって最初の5日間の午前中を開館日としている。地域子ども教室と共催しているため、開館日全てで行事を行うことができ、教職員・PTA・放課後子どもクラブと協力して開館している。

行事では、工作・DVD鑑賞会・おはなし会などを行い、5日間でのべ507名の参加があった。

今年度は小中連携の試みとして、十中の生徒による人形劇としおり作りを行い、大変好評であった。



中学生による人形劇『おおきなカエルティダリク』



中学生と一しょにしおり作り

島田小からは十中だけでなく七中にも進学するので、来年度は七中とも連携するなど前向きに取り組んでいきたい。行事だけでなく、夏休みの宿題を教員に質問する姿や、自由研究の資料を探る姿、保護者と折り紙を楽しむ姿、紙芝居を読みあう姿なども見られ、児童一人ひとりが自由に学校図書館での活動を楽しんでいた。



教職員や保護者と一しょに工作



工作：きらきら折紙で作った かざぐるま

中学校図書館

図書委員会が中心となって、委員会だよりの発行や読書会、図書館行事の企画など、読書活動を広げる取り組みを行っている。

中学生は自分たちで企画運営を行うことが好きである。第十四中学校の図書委員会では、毎年いろいろな企画を打ち出しているが、平成22年度（2010年度）は「本のさし絵コンテスト」を実施した。

自分の好きな本の好きな場面を選んでオリジナルのさし絵を描いてもらい、コンテストをしようという初の試みである。また学校行事である「全校読書」とタイアップして、全校生に図書館のPRをするという目的もあった。

スケジュール、応募方法からコンテストの方法、図書委員会だよりの広報など、何が必要か自分たちで知恵を出し合い、入賞作品は全校集会で表彰するなどアイデアがたくさん出て、充実した委員会活動になった。

この取り組みは、後日、応募作品を野畑図書館に掲示させてもらい、地域の方に中学生の読書生活の一端をみてもらうという広がりを見せた。一番楽しんだのは、他でもない図書委員自身であった。

コンテスト当日の様子



応募作品に見入る生徒たち



広がる広がる本の世界



自分たちの考えた企画がうまくいったらうれしいし、本のPRになる。展示を工夫したり、表彰状を自作したりして達成感があった。

図書委員

参加するのも楽しいし、作品をみんなに見てもらえるのがとてもうれしいです。

参加者

小中連携の取組み

子どもが主体となって読書の豊かさ・楽しさを体験し、伝え合う催しを小学校・中学校が連携して行っている。

<小学校図書館からの報告>

大池小学校では、卒業する6年生が進学先の第十三中学校図書館に興味を持ち、活発な利用を促す目的で、3月の最後の図書時間に、十三中図書館紹介のプリントを配布し、説明を行っている。小学校では毎週設けられている図書の時間が中学校にはないので、小中をつなぐ取り組みがしたいと考えた。

主な内容は、十三中司書オススメの本・十三中で人気の本・購読雑誌である。また、小学校で読んでいたシリーズの続きが読みたい児童には、そのシリーズが十三中の図書館にあるかどうかに関心事なので載せている。6年生の反応はとても良く、「十三中へ入学したら絶対図書館に行く！」と期待をふくらませている児童が多数いた。



<中学校図書館からの報告>

第十二中学校では小中連携事業の一環として、平成21年(2009年)から夏休みに高川・小曾根・豊南小学校の図書館へ紙芝居を読みに行っている。紙芝居の読み方は高川図書館で紙芝居ボランティアをされている、おはなしポケットの方に読み方の指導をして頂いた。参加した生徒からは、また来年も読みたいという声も届いた。



関連する取り組みの番号 75 子どもの読書活動への取り組み 78 読書活動の推進
79 小学校・中学校の連携